

ラオスの都市部の小学生の欠席に影響を及ぼす要因の検討  
—生活習慣の乱れと子どもの不定愁訴に着目して—

宇羽野美希

キーワード： 欠席 不定愁訴 生活習慣 ラオス 小学生

## I. 研究の背景

ラオスは東南アジアに位置する後発開発途上国である。ラオスでは、1990年代から進められてきた諸外国による学校建設支援と、就学率の向上政策によって、2010年には、初等教育の就学率が90%に到達した。また、2005年には、学校保健政策が策定され、「学校」へ水やトイレなどの衛生施設を整備する政策が進められてきた。しかしながら、ラオスでは、近年、急速な経済発展とともに近代化が進行し、下痢やマラリア等の感染症だけでなく、生活習慣病の問題が台頭してきている。上記の背景のもと、近年、教育の量的拡充から質的向上を図り、子どもたちが健康で安全な状態で学習に望み、学業成績を向上させることが目指されている。従来の研究では、子どもたちの学業成績には、学校への出席状況が関連していることが指摘されており、主な欠席の理由としては、いじめ、親からのプレッシャー、人種や貧困の差があることが明らかにされている。しかしながら、出席状況を管理するシステムの無いラオスには、子ども達の出席状況は十分に把握にされていない。また、従来、マラリアや寄生虫への罹患が学校の出席に関連することは指摘されてきたものの、子どもたちの日常的な健康状態を示す不定愁訴(器質的疾患のない自覚的訴えであり、検査をしても原因となる病気が見つからない状態)の有無や生活習慣と欠席との関連は、十分に明らかにされていない。

## II. 研究の目的

本研究では、ラオスの子どもたちの出席、健康状態(不定愁訴)、生活習慣の現状を明らかにし、子どもの欠席との関連を検討する。また、欠席の要因と、生活習慣との関連を明らかにする。さらに、得られた結果をもとに、ラオスでのよりよい健康教育について検討することを目的とする。

## III. 研究の方法

本研究は、2012年9月にラオスの中南部に位置するサワナケート県の3年生から5年生の小学生169名を対象に、自記式の質問紙を用いて実施した。質問紙は、先行研究を参考にラオス人研究者と共同で開発した。質問紙は、1)学校の出席状況(遅刻、欠席、早退の頻度)、2)不定愁訴(眠気、学校での眠気、食欲、疲れ、頭痛、胃痛、めまい、めまいがして倒れる、立っているとき倒れる、午前の疲れ、動悸、顔面蒼白の有無)、3)睡眠習慣(就寝、起床時間の規則性、睡眠時間)、4)運動習慣(頻度や時間)、5)衛生習慣(手洗

いとトイレの使用の頻度)、6)食習慣(頻度や食事の規則性、朝食、魚、肉、野菜、卵、果物、お菓子、甘い物、カップラーメン、乳製品の摂取頻度)、7)住居状況(水、トイレ、電気施設の有無)で構成した。データの分析では、欠席の有無を目的変数として、性別及び学年と、単回帰分析により欠席群(よくある、時々するの合計)と非欠席群(あまりしない、全くしないの合計)の間で有意な差が認められた項目を説明変数として、ロジスティック回帰分析を行った。また、不定愁訴の合計得点と睡眠習慣、運動習慣、食習慣、住居状況との関連をスピアマンの相関分析により分析した。

## IV. 結果と考察

調査当日の欠席者および解答不明者を除く、男子75名、女子69名、計134名(有効回答率79.2%)のうち、欠席群は56名(9.9±1.4歳)、非欠席群は88名(9.8±1.4歳)であった。男女ともに3割を超える子どもたちが、日常的に欠席をしている現状があることが明らかになった。また、小学生の欠席に及ぼす要因は、朝自分で起床しないこと(OR 2.29; 95%CI 1.10-4.75)と不定愁訴の総計(OR 1.21; 95% CI 1.05-1.41)であることが明らかになった。また不定愁訴の多寡には、起床、就寝、食事などの時間が不規則なこと、学年が高いこと、朝食を抜く頻度が多いこと、起床時間が遅いことなど、健康教育による働きかけで改善可能な要因が関係していることが明らかになった。一方、学年、性別、トイレや水、電気等の施設の所有の有無と欠席の有無には有意な関連性は見られなかった。今回の調査は、都市部で行ったため、先行研究で指摘されていた男女差や、学年差、住居状況等が欠席の有無に影響しなかったのではないかと考えられた。また、今回は、一部の小学生を対象に調査を行ったため、年代差や地域差を検討することはできなかった。今後、ラオスの学童の現状を把握するためには、農村部や中、高校生を対象にした調査も実施をしていく必要がある。

## V. 結論

ラオスの子どもたちの出席状況とその要因を検討した結果、3割を超える子どもたちが日常的に欠席しており、その要因としては、朝自分で起床しないことと、不定愁訴の訴えが多いことが関連していることが明らかになった。また、ラオスの子どもたちの健康状態を保つためには、健康教育を通して、生活リズムの改善や、朝食摂取の推奨などを進めていくことが示唆された。